

私は今回の呼和浩特市サマーキャンプを通して、言語の面で気付かされることが沢山ありました。

1つ目は、ホームビジットでの経験です。ホームビジットでは、ホストファミリーの作ってくださった中国の家庭料理や、種類豊富な果物、伝統的なお菓子などを食べたり、市内の有名な観光地へ行きました。その中でも印象に残っているのは、昼食を食べている時の父との会話です。ホストファミリーの中で唯一、英語を話することができる父と、英語や翻訳機を使って会話をしました。翻訳機を通して会話をした時よりも英語での直接的な会話の方が、父の感情も同時に感じ取ることができました。

私はこれらのことから、伝えたい事だけでなく、思い、感情も一緒に伝えるには、翻訳機に頼らず、自らの言葉で話すべきだと分かりました。



2つ目は、英語の重要性です。サマーキャンプを通して、特に仲良くなることができたのは、ロシアからの参加者でした。ロシアの友達との会話の中で、お互いの言語を教え合いました。その中で、私は、全て英語が言語と言語の架け橋となっていることに気が付きました。私が、日本語を教える時には、まず英語を言って、それを日本語では、どうやって発音するか教えます。逆に、ロシア語を教えてもらう際には、英語で何と言っているのか聞いて、初めてロシア語を理解することが出来ます。私はこれまで、学校における英語の勉強の目的は、ただ、海外の人と会話をするため、海外の文献を読むためだと考えていました。ですが、サマーキャンプの経験を通して、英語学習が、他の国の言語の学びに繋がるということが分かり、よりいっそう英語学習を楽しんで進めることが出来ています。



私は、今回のサマーキャンプに参加して良かったと、心から感じています。そう感じる事ができるのは、現地で出会った全ての人のおかげです。たくさんのおもてなしで出迎えてくださったホストファミリー、サマーキャンプの中で関わることが出来た海外の友達、困った時に手を差し伸べて下さった通訳のおふたり、また、空港での手続きのサポートや現地の人しか知り得ないような美味しいお店に連れて行って下さった旅行会社の方など、本当に多くの素敵な方に出会うことができた 1 週間でした。帰国してからしばらく経った今でも写真を振り返ると、楽しかったあの時の思い出が一つ一つ、蘇り、またみんなに会いたいという気持ちや、感謝の思いが込み上げてきます。

高校生活最後の夏に一生の思い出になるような貴重な体験ができたこと、感謝しています。このような機会を作って下さった岡崎市国際交流協会の皆様、本当にありがとうございました。